



Title	都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第4巻 第3号 B 冊
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1953
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77406
Type	manuscript
Note	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。都市の社会成層。
File Information	N007_01BS28.pdf



[Instructions for use](#)

NOTEBOOK
HIGH CLASS

都市社会学

二十八年度
特选讲义案
第四卷第三号
B册

都市の社会阶层



第二章 社会成層

社会の空間の概念を指定し社会の空間
向いてゆく人も社会の空間の社会的距離を
を考へる。社会の階級について考へる。す
場合、そこには水平的な社会的階級と
共に垂直的な上下の社会成層が予想
され、^{後者}である。

垂直的な上下の社会成層が、社会階級
として、他人の社会的上昇と下降、集団
の上昇と下降、社会の空間の上昇と下降が
同じである。或る層の社会的距離が
同じである。社会的空間の中に社会的
距離が異なる。社会的空間の中心に社会的
距離が異なる。社会的空間の中心に社会的

を確立する上にとしかに任意である。

此の成序は四角形。数算的虚構である

この各階層は、此の成序の線とは念然に思

わね可なりともある。半玉の形。それは

仲不しとし。記号の形式は、記号の形式は、記号の形式は、記号の形式

和字は階層構成の余儀の中心に此の成序

包みの形をとり出す事か出来る。又数算的

成序構成には無数の数算的存在としての

成序も考へるべきか。その成序の階層の中

には、成序の成序の認め、成序の認めもあつた

成序の成序の基礎となる。片もあつた。

階層を成序の認め、成序の認めもあつた。

階層を成序の認め、成序の認めもあつた。

階層を成序の認め、成序の認めもあつた。

の対立意識を認め、如く場合を区別する
事。かくて無数の数学的階層の中
若干の基階層の統一をなす階層を有
し、これを全体として階層構造を形成し
て、階層を介して、不連続。

故に数学は数論的成層の内未だ数学
を形成するに至らぬ^{此の}階層も数学
的成層ではない^{此の}。数学的統一を
上げ、これを元は階層の上下構造に
対し、階層に比す可なり存在を認めらるる
事。

階層の統一を階層の統一と認めらるる

形で存するか、否かして、どんな形であらうか
之れを決定して片しか、案を明かにする為
には、^{（註）} 量的成層自作に於いて、固執を
専守を以てし、片ならず、

一九五二年の日本社会が、国際社会
の発展の一環として、現代の日本の

大都市に於いて、社会成層の移動に

関する調査は、右の如きに於ける、調査

である。 （日本の社会成層の調査）
用紙あり

之にては、社会成層の概念を、法の如きものと
して、

「社会の成層とは、その成層の社会的

地位の差異にせよ一父位、社長の
階級の精選と指し、そしてこの場合
者成身、社長の地位は本人なり、此
等の近親者の職務より収入財産を
先給親座、次に上り、親座より此のとき
一也、P.3

*
本行が同一地位にあり、社長の地位は本行
の職務の階級に依りて異なる。

こゝでは社長の成層と云ふ語は實質上
社長の地位と云ふ語でなく、
こゝでは第一の社長の地位の階層構造に
より分けらる。社長の成層は山は
多岐にあり、
成層と云ふ。同様の結果である。
見ると、
見ると、

各別研究
女子の持主の階級的積進はついでにそのほか
の持主のついで

この調査は都市社会成層調査として
経済調査と社会階級調査の調査である
から、この調査の結果を基として、詳しく
報告する。

この調査の主要目標の一つは、大都市
市の全体および各都市についてこの
ような階級的積進とその変化の
根拠を明らかにする、人の社会的地位の
推移を明らかにする、である。K.P.

(一) 階級、都市、経済地帯等のこと、各人の
社会的地位の対して、密に社会の(国)事を基
として、各都市の階級を相互関係のなかで

職業には職業、工場業の中芝の場
に必要なる要因に於ける階層のみ
よしてその人の職業的成長を決定
し、総合的に格次する。即ち
格次を以て少くして総合的に決
定するは法定性の要因の一つの
「ケルズ」。

- (三) 職業は存在するか (四) 二水準の法要を甲乙
いつれが社会的地位に對してより強
く作用してよりか (五) 職業の存在は階層性
の異なる階層的要素と人々の階層性
の差、階層、階級を在りて決定するの
こととそれと階層的要素との間に如何なる
関係が存在するか (六) 職業の格付けおよ
びその基準は都帯に於て各人との
年令や工場職業に於ていかに異なるか
(七) 各人の生涯に於ては又各家族の世
代に於ては職業の格付けおよび格次
は職業に於ていかに異なるか

同の答へよと、この洞垂に於けよ

いそつの子を印標とす。P.4

本洞垂によ、洞垂塔条の内側に

注意を要するものなりとす。

牙2表 (P.13)

牙4表 (P.13)

牙6表 (P.14)

牙10表 (P.14)

牙11表 (P.14)

牙12d表 (P.18)

牙14a表 (P.19)

~~牙15表 (P.20)~~

牙16表 (P.20)

並清高子

牙17表 (P.21)

牙18表 (P.21)

牙20表 (P.22)

牙28表 (P.25)

牙45a表 (P.33)

この日本社会の調査はサンゴと

して六十年代の人間を批判した結果

各階級に属する他人の調査を遂げ

たのである。本調査が我々の「おれ」の常識

の「大規模」の協同調査であることは、

都市の社会成層の調査として

調査の成果として

「おれ」の希望するところの「おれ」の

「おれ」の本調査の「おれ」の目標である

「おれ」の地位の階層構成が「おれ」

「おれ」の総合として「おれ」である

「おれ」の地位の条件となる

これは階級を「おれ」を「おれ」
「おれ」の「おれ」が「おれ」は「おれ」
「おれ」の「おれ」が「おれ」の「おれ」
「おれ」の「おれ」が「おれ」の「おれ」
「おれ」の「おれ」が「おれ」の「おれ」
「おれ」の「おれ」が「おれ」の「おれ」

「より高くなる」

★野心的の存在は「一般市民が有する」
★平均の如くは「平均」に「平均」し
★平均の如くは「平均」に「平均」し
★平均の如くは「平均」に「平均」し
★平均の如くは「平均」に「平均」し

①本調査はかくの如く総合的社会的地位
の存在を認めよう。また、社会的地位
の存在を認めよう。また、社会的地位
の存在を認めよう。また、社会的地位
の存在を認めよう。また、社会的地位

②平均の如くは「平均」に「平均」し
平均の如くは「平均」に「平均」し
平均の如くは「平均」に「平均」し
平均の如くは「平均」に「平均」し
平均の如くは「平均」に「平均」し

「平均」に「平均」し

うと見られる。三つの要素即ち職業、上
経済的状況、収入の各々について階層が示され

階層の各々について階層が示され

の構造である。②
社会的地位の階層
の構造である。②
社会的地位の階層

社会的地位の階層

社会的地位の階層

社会的地位の階層

社会的地位の階層

社会的地位の階層

社会的地位の階層

社会的地位の階層

社会的地位の階層

③

③ 三互統より

何れの社会の勢力の差を思ふとつく二階層又階級取得意識の調査は従うに階級取得意識の如何

意とは得るべき。経済的勢力、武力、政治的力、文化

文化の勢力等からその社会的勢力を測るべき。抑も社会の成層は社会的に同化する

結果身たる社会をなすは経済的力たるを支持し理由は社会成層の場の上は種々の社会

たか、此階級の中不し二階層に思ふべき統一形成せしより

是の争いによる幾つかの階層又は階層の基盤の上

は。経済的勢力を思ふとついで生産手段の所有の形成せしより

此階級の別と階級は区別するべき。収入の多寡を以て階級の別を以て

争いや生活水準等を考慮して其の階層を区別するものは

正か否か。上下階級に於ける階級意識の調査は従うに階級意識の如何



39 概

④ コノ意更ニ

その上



この社会の階級としての調査は社会成層の
階級の調査として常に必要である。階級の
別は必ずしも階級であるとは必ずしも一致
しない。調査の階級は階級の階級である。
階級の階級は必ずしも階級の階級である。
階級の階級は必ずしも階級の階級である。



完全



三要素

① 社会階級としての調査は階級の階級である。

② 階級の階級としての調査は階級の階級である。
階級の階級としての調査は階級の階級である。

おもしろい出来事

この社会階級としての調査は階級の階級である。

階級の階級としての調査は階級の階級である。

階級の階級としての調査は階級の階級である。
階級の階級としての調査は階級の階級である。

社会成層としての調査は階級の階級である。

階級の階級としての調査は階級の階級である。
階級の階級としての調査は階級の階級である。

階級の階級としての調査は階級の階級である。
階級の階級としての調査は階級の階級である。

階級の階級としての調査は階級の階級である。
階級の階級としての調査は階級の階級である。

階級の階級としての調査は階級の階級である。
階級の階級としての調査は階級の階級である。

階級の階級としての調査は階級の階級である。
階級の階級としての調査は階級の階級である。

Klasse an sich
Klasse für sich

＊ 言説字幕等、以故の世帯の丁史に大きく
現出する其に比二大隣争因作の社会は教
他の国原や拉争とは切り括して来し可き
ある。

(丁史の前)

と云いやまは

彼の村を嫌う一ヶ村とし又
其の職場に

あつて、甚しく利便
人を利する。

（実務上）

少い人にと一因の対立と云ふ事は
合配ん

その一因と
水を操取神権取の対立と解す。

と云ふも。 少くとも漸増の成層階級を
全口内の各職にわけ、二因作の積の運

と組織化は巨大なる二因作の社会競争を
しよる上、殆ど互に互に二因作を

三職階に上一人くの成層を

此も率に大よく回轉して

年層階層も一つの社会成層をなす。時代と民族により、年層階層に大なる力をもつた力をもつたか異なり。老人と支配的ない社会者年と支配的ない社会者年。

- (1) 中打居の年層階層村の人口移動
- (2) 大分県の年層階層都市青年年層の年

位形式として帯生活

社会成層年層階層青年年層

社会階層とは核心の階層

社会階層とは核心の階層

社会階層とは核心の階層

社会階層とは核心の階層

社会階層とは核心の階層

社会階層とは核心の階層

社会階層とは核心の階層

社会階層とは核心の階層

社会階層とは核心の階層

社会階層とは核心の階層

社会階層とは核心の階層

青年層は如何なる社会的青年層であるか
を意味するもの

と云ふ事をして片す。この都市で断つて片す生理
都市に於いて青年層が膨大して片す事
は都市の社会の形態にして機能にして故に
又都市の文化に大きな影響を及ぼす事
片すに相違ない。

都市に於ける生活生活への青年層の考
加は諸種の職域社会に於ける人口構成を
とるに非常明らかな事。然し都市の青年層が
都市の生活生活への甚しい寄与は充てん
に御を新しにすは要する。都市の文化
が如何なる青年を育成して片す
の故に都市文化の環境は青年文化

の発展に外ならない。そして都市文化の
発展が口民文化の発展に導くに至るべき
都市青年層の口民文化に昇るべき
に紋割を要するもの。

都市青年層には何等の社会的統一性

も無い。然し人の経済集團と見よ

るは出来る。その統一性を今作らねば

ならない。経済的統一性を求むる

中に於ける社会的統一が示さねばならぬ

ある。

都市青年層は片足の形を呈せんと

次の七統一を待たぬ。

* 親世の中の大規模な事業に及ぶものとして
 中小の工業に及ぶものとして自ら田舎に於て
 格を以てして居るものとして現れし居るもの

一 父母と共に居るもの

二 妻を娶ひて共に居るもの

三 累代に居るもの (海帯の類)

四 他の宗族に同居するもの (親戚、妻を娶ひて同居するもの)

五 下宿屋に居るもの

六 実家、寮に居るもの

七 徒勞として居るもの

五 親世の中の大規模な事業に及ぶものとして
 中小の工業に及ぶものとして自ら田舎に於て
 格を以てして居るものとして現れし居るもの

六 親世の中の大規模な事業に及ぶものとして
 中小の工業に及ぶものとして自ら田舎に於て
 格を以てして居るものとして現れし居るもの

七 親世の中の大規模な事業に及ぶものとして
 中小の工業に及ぶものとして自ら田舎に於て
 格を以てして居るものとして現れし居るもの

あり、従来として業らうとして不事なる若
者との子には既に社会構成原の上下が乞
ふれよ。是れはどの種族に於ても一色の上の因
空行の事か。同種は色々にあるある。

表

何パーセントの青年が結成された事
張合の割合であり、何パーセントが
定の降着にあり、何パーセントが中回

とあり。この比率は都市が
絶えず不慮をかしこく文化の型を
決するに及ぶ。

とある特案の紹介の構造をい
はす。